

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年6月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	1174200681
法人名	悠馬エンタープライズ株式会社
事業所名	グループホームゆうゆう倶楽部
所在地	〒367-0238 埼玉県児玉郡神川町肥土220 (電話) 0495-74-2333
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年5月20日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 7人, 非常勤 6人, 常勤換算 9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり1,000円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名
要介護3	5 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 72 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	和光会光病院、富永クリニック、さとう歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、平成16年5月1日に開設し、田園に囲まれたのどかな自然環境の中に位置し、2ユニット2階建ての建物である。グループホームの理念は「明るく・楽しく・賑やかに」を掲げ、日々の取り組みの中で実践している。法人系列の他の5施設との職員の連携や情報交換が行われ、2施設合同の夏祭りなどにも積極的に取り組み、サービスの向上につなげている。職員や利用者同士の会話も和やかで暖かいケアが実践されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念の玄関への掲示や利用者の居室の入口の表示など、前回評価で指摘されたことにも取り組んでおり、会議やミーティングで外部評価の意義を説明して理解を得ている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者だけでなく職員の意見も取り入れて作成され、情報の共有化がされている。また、会議やミーティングで外部評価の意味を伝えている。職員全員が利用者一人ひとりの状況を良く把握しており、ケアの問題や改善課題が共有されている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は年2回行われ情報交換されている。出席者は、地区の代表、民生委員、地域包括支援センター、家族の代表、施設長、ケアマネージャーなどであり、施設の状況や行事予定などが話し合われている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の面会時に会計報告や介護記録などで情報の提供をし、出来るだけ意見を出しやすい雰囲気を作る努力がされている。2ヶ月に1回「ゆうゆう通信」が発行され、郵送したり面会時に渡したりしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩や買い物の際は積極的に地域の方と挨拶を交わすように努めている。また、町内会の行事や、近くの神社のお祭りに参加している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく・楽しく・賑やかに」を理念として掲げ、地域の中で暮らし続ける支援を実施している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティング、月1回のケア会議で理念に必ず触れ実践に向け取り組んでいる。目配り、気配り、思いやりを持って理念を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の行事や近くの神社のお祭りには参加している。自治会費は納めているが回覧などが無いため、職員が広報誌「神川だより」を持参して行事などの情報を得ている。		町の行事にはいつでも参加してよいと言われているが、案内状は来ない状況である。今後、地域の一員として受け入れていただけるように継続的な取り組みが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議やミーティングで外部評価の意義を説明し、前回評価で指摘されたことにも取り組んでいる。具体的には、理念の掲示や利用者の部屋の入り口の表示などが工夫され、また、地域の方達の理解と協力を得るためにも車椅子などでも外出の機会を持っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議は、地区の代表、民生委員、地域包括支援センター、家族の代表、施設長、ケアマネージャーの出席で年2回行われた。会議では、施設の状況や行事予定の報告、情報交換が行われサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の介護保険課とは部屋の空き情報や入退所報告を行うなど連携が保たれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に金銭管理の報告や介護記録などで状況報告をし、意見を出しやすい雰囲気作りがされている。2ヶ月に1度発行している「ゆうゆう通信」を郵送したり、面会者に渡したりしてホームの日常を理解してもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在のところ苦情や不満といった内容の提言はないが、面会時には必ず声かけをして家族と話し合う機会を設けている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者や職員の異動は必要最小限に抑え、ユニット間の異動もほとんどない状況にある。定着率もよくダメージもない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修を受講する機会は設けられ、埼玉県や群馬県で行われる研修に参加している。		施設内で計画を立て段階的な研修の機会を設け、職員・非常勤職員ともに、できる限り外部の研修も含めて受講できるように検討されることが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の合同夏祭りや、忘年会、花見など行われている。法人内での勉強会の計画もされており、また、神川町のグループホーム6施設で地域包括支援センターが中心になり交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居時に、本人や家族から基本情報を収集した上で家族の見学なども受け入れている。病院から直接入所されるケースもあり、家族と協力して納得の出来るよう援助している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の知識や経験を活かしての食事作りや、年間行事などの創作物を作成したり、支えあいながら関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>契約時のプロフィール表から情報収集したり、日々のかかわりの中から利用者の思いを常に意識し、利用者の希望に沿えるよう対応している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当が決まっているため、利用者の状況をケア会議で報告し、職員間で話し合った上で介護計画を作成している。介護計画は、面会時や郵送、電話などで確認し同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しや、心身の状態に変化があったときの変更は、家族の面会時に聞いたり、ケア会議で職員間で話し合い見直ししている。病院退院後には、新たに計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	本人や家族の状況を把握し実 施している。心療内科への通 院や買い物、夏祭りへの参加 など、状況に応じて支援して いる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかか りつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受け られるように支援している	入居前のかかりつけ医かホ ームの協力医療機関かを検 討していただき支援している。 かかりつけ医・歯科医の往診 は月2回実施されている。また 緊急時の受け入れ病院も決め られている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と 繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	現在事例はないが、家族や かかりつけ医とは話し合いの 機会をもち、重度化や終末 期に向けた方針の共有がされ ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバ シーを損ねるような言葉か けや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	プライバシーを確保するた め、利用者一人ひとりの誇 りを尊重して支援している。 また、個人台帳や、記録類 などの保管はスタッフルーム などに保管され外部者が見 ることが出来ないようになって いる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先 するのではなく、一人ひとり のペースを大切に、その日 をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペース を尊重し、本人の望む生活 のリズムで過ごせるように 支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の一人ひとりの状況を見ながら声をかけている。できる限り好みに合わせた献立をたて、買い物、調理を一緒に行っている。職員は利用者の状況に合わせて介助をしたり、見守りながら一緒に食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については週2回入浴出来るようにしている。入浴を楽しむことが出来るように、利用者のペースにあわせて支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テーブル拭き、洗濯物たたみ、食器洗いなど利用者の生活歴や力に合わせ、出来る事は自らやってもらい自然に分担出来ており、役割のもてる生活を送っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩以外にも買い物に出かけたり、職員は利用者の希望を随時聞き支援している。また、食材料の買い物にも一緒に行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当初は鍵はかけていなかったが、ホームが道路に面しており、特定の利用者や入居間もない利用者の安全のため、現在玄関は施錠されている。		利用者の外出の傾向等をつかみ、地域の人にも理解を求め、見守りや連携に努めるなどして、今後鍵をかけずに安全に過ごせる工夫を検討されたい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の様々な災害を想定しての避難訓練、消火訓練が行われているが施設のみで行っている。ホームエレベーターはあるが、2階の安全な避難経路は確保されていない。		今後運営推進会議で協力を呼びかけ理解を求めるなどして、地域住民との協力体制を築いていけるよう連携づくりが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により献立が立てられ、高血圧・糖尿病食などにも配慮されている。食事摂取量や必要によっては水分チェックも行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入り口には鉢植えが置かれたり、デイルームは天井が高く採光もよい。ゆったり出来るソファがあり、利用者のくつろぎの場所となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人と家族で相談の上、使い慣れた家具や日用品が持参され、居心地よく過ごせるように工夫されている。全体的に荷物は少なくよく整理されている。		